

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名	歴史的建造物保全及び景観地区内 建造物修景等事業費助成金				担当	建設部新幹線・まちづくり推進室			
事業概要	景観条例に基づく登録・指定歴史的建造物等の保全を図るため、外観の保全に要する経費の一部を助成し、所有者への経済的な支援を行う。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	0	千円	0.0	人	0	千円	0	千円	
R7予算	14,400	千円	0.5	人	2,870	千円	17,270	千円	
目標	助成制度の運用により、指定歴史的建造物の件数を維持する。								
実績・効果	指定歴史的建造物の件数は次のとおりとなった。 指定件数 H30年：79件 R7年：79件 歴史的建造物の維持保全に寄与した。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・老朽化が進行している歴史的建造物の維持保全等に係る所有者の経済的負担が増大しており、事業を廃止すると、同建造物の減少につながる。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・歴史的建造物の維持保全には多額の経費を要することから必要な支援である。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・所有者への助成意向調査で、事業活用の要望がある。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・財源は小樽ファン基金により運用しており、寄附者の意向に沿っている。 ・また、国の交付金や宿泊税の活用も視野に事業実施の予定である。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					拡大				
【今後の方向性の説明】									
・歴史的風致維持向上計画の認定により、重点区域内の「歴史的風致形成建造物」に対する、国の交付金を活用できることとなったことから、景観条例に基づく歴史的建造物等について、同建造物への指定を進めるとともに、保全に係る助成金の拡充を図る。									
・小樽ファン基金の枯渇が予想されることから、助成の財源に宿泊税の充当も予定している。									

事業名	歴史的風致維持向上計画推進経費				担当	建設部新幹線・まちづくり推進室			
事業概要	歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画を策定、認定を受け、国の支援制度を活用しながら、同計画に記載する各種事業を推進することで、本市固有の歴史的風致の維持向上を図る。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	2,602	千円	3.5	人	20,087	千円	22,689	千円	
R7予算	8,352	千円	2.5	人	14,348	千円	22,700	千円	
目標	令和7年度中に歴史的風致維持向上計画の策定及び国の認定を目指す。また、計画認定後は、重点区域内の歴史的風致形成建造物候補について、指定の手続を進める。								
実績・効果	令和7年7月に国から計画の認定を受けた。これにより、国の支援制度の活用ができることとなった。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・市長公約に該当する事業である。 ・歴史的なまちなみの保全のほか、市民の郷土に対する誇りと愛着の醸成につながる。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・計画に記載する各種事業の進捗管理について、国への報告を要する。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・重点区域内の歴史的建造物を計画に基づく歴史的風致形成建造物に指定することで、国の交付金が活用でき、所有者の負担軽減につながる。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・計画の認定を受けたことで、今後、計画に記載する事業の実施の際に、国の支援の活用も可能となる。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
・重点区域内において、歴史的風致形成建造物の指定を進め、歴史的なまちなみの保全を図る。									
・認定計画に記載する重点区域内の各種事業について、国の支援制度の活用を検討しながら取組を進め、歴史的風致の維持向上を図る。									
・国の支援制度の新規創設などの情報収集を行い、その活用の検討や計画変更などの準備作業を進める。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 日本遺産推進協議会補助金			担当 産業港湾部観光振興室						
事業概要		日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～」の事業主体である小樽市日本遺産推進協議会へ補助金を支出し、各種事業及び啓発事業を協議会が主体的に推進し、日本遺産を活用した地域活性化につなげる。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		3,000	千円	1.3	人	7,461	千円	10,461	千円
R7予算		6,645	千円	1.3	人	7,461	千円	14,106	千円
目標		協議会に補助金を支出し、安定的な体制の維持と効果的な事業運営を図ることで、日本遺産を活用した地域活性化計画に基づいた取組を推進し、日本遺産の継続的な認定へと繋げる。							
実績・効果		R3～R5に日本遺産候補地域となっていた「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～」がR6に文化庁の審査を受け、R7.2に小樽市初の単独の日本遺産として認定された。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、事業の継続性がないと認定取り消しとなる可能性がある。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・明確な目標を設定し、その達成のための実施体制が整っている。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・アンケートによる対象者の満足度が高い。 ・R7に日本遺産に認定され、期待した効果が表れている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・交付税措置がある。 ・文化庁の補助金の活用ができる。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、評価次第で日本遺産の認定を取り消される場合もあることから、認定を維持するために、地域活性化計画事業を着実に実施する。									

事業名 小樽市民俗芸能伝承事業			担当 教育部生涯学習課						
事業概要	児童生徒が地域の歴史を学び、伝統文化に触れる機会を創出する。市内小中学校に協力を依頼し、「向井流水法」はプール学習、「高島越後盆踊り」「松前神楽」「忍路鯨漁撈の行事」は総合的な学習の時間等を通じ、それぞれの文化財の体験活動を行う。								
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		145	千円	0.2	人	1,148	千円	1,293	千円
R7予算		170	千円	0.2	人	1,148	千円	1,318	千円
目標	小樽市内に所在する文化財「松前神楽」「忍路鯨漁撈の行事」「向井流水法」「高島越後盆踊りの行事」の振興を図るとともに、児童生徒に対する普及活動（体験活動や練習会）を通じ、後継者育成や郷土愛の醸成を図る。								
実績・効果	事業に参加した児童生徒の人数は、次のとおりとなった。 参加人数 令和4年度：95人 令和5年度：223人 令和6年度：366名 地域の文化財の振興及び後継者育成や郷土愛の醸成に寄与した。								
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・事業を廃止すると、児童生徒が地域の歴史文化を学習する機会が減少し、郷土愛が醸成されにくくなる。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・学校、保存会、教育委員会連携により、持続可能な実施体制が整っている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・児童生徒や教員の満足度が高く、学校の定例行事として定着している。 ・体験後、保存会に入会した児童生徒がいる。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・文化財体験活動を行う事業として、唯一の事業である。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
市内の無形文化財及び無形民俗文化財の普及・伝承・振興のため、事業は継続して実施したいと考える。地域の文化財体験活動は、子ども達の郷土愛の形成にもつながるため、継続して実施していく。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 都市景観形成推進経費				担当 建設部新幹線・まちづくり推進室				
事業概要		都市景観に対する市民の意識の向上や周知を目的に、指定歴史的建造物や小樽八区八景のガイドマップを配布するとともに、写真パネルを制作し、写真パネル展などを実施している。						
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	30	千円	0.3	人	1,722	千円	1,752	千円
R7予算	33	千円	0.3	人	1,722	千円	1,755	千円
目標		小樽八区八景写真パネル展を開催し、自然景観の魅力や市民のまちに対する愛着を再認識してもらうことで、都市景観の保全につなげる。						
実績・効果		・小樽八区八景写真パネル展の実施回数は次のとおり。 令和4年度：1回 令和5年度：1回 令和6年度：1回 ・隔年で行う八区八景めぐりは令和4年度に実施。令和6年度は業務状況を鑑み未実施。 都市景観に対する市民の意識の向上に寄与した。						
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・良好な都市景観の形成には、市民や事業者の理解と協力が不可欠であり、様々な方法によって市民等の景観に対する意識啓発を図る必要がある。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・パネル展は駅前第2ビル公共プラザで開催しており、幅広い世代の市民等が訪れるため、本市の魅力を周知啓発できている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・パネル展で設置している八区八景や歴史的建造物のパンフレット等の補充を要し、来観者は少ない。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・低予算で事業を実施している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】								
・市民の都市景観に関する意識の向上を図ることは、景観資源を本市固有の財産として捉え、守り育て魅力あるまちなみ形成にも寄与することから、より多くの方への周知啓発に向け、取組を継続する。								

事業名			屋外広告物許可申請関係経費			担当		建設部新幹線・まちづくり推進室		
事業概要			小樽らしい景観形成を図ることを目的に、北海道より一部権限移譲を受け、平成24年から屋外広告物に係る許可申請などの業務を行っている。また、屋外広告物条例に関する資料作成など、市民や事業者に対して適正な屋外広告物の設置等について周知啓発を図る。							
			事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算			210	千円	1.0	人	5,739	千円	5,949	千円
R7予算			384	千円	1.0	人	5,739	千円	6,123	千円
目標			屋外広告物許可申請の適切な運用により、良好な景観形成を図る。							
実績・効果			屋外広告物の新設や変更等の表示に対して、許可申請の際に大きさや高さなどを協議、誘導を行うことで、良好な景観形成に寄与した。							
点検・評価	点検項目		評価				評価の理由等			
	必要性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・権限移譲により本市が担う業務である。 ・権限移譲を受ける以前からも景観条例により屋外広告物の指導等を行ってきた経緯がある。			
	妥当性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・良好な景観形成を図るためには、本市独自の基準を設け、規制・誘導を行う必要がある。			
	有効性		☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・屋外広告物の規制・誘導を行うことにより、建築物や工作物と一体となった良好な都市景観の形成が図られる。			
	効率性		☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・手数料収入がある。 ・建築物等の景観の届出と屋外広告物の許可申請手続が本市で完結する。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性							継続			
【今後の方向性の説明】										
・引き続き、本市の屋外広告物の基準を周知するとともに、条例に基づく許可申請等を通じた規制・誘導を行い、良好な景観形成を図る。										

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 歴史的建造物等保全対策費				担当 建設部新幹線・まちづくり推進室					
事業概要		市民等への意識啓発事業として「歴史的建造物めぐり」を行う。また、指定歴史的建造物や重要眺望地点などに設置している説明板について、劣化の著しいものを修理する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		522	千円	0.3	人	1,722	千円	2,244	千円
R7予算		389	千円	0.3	人	1,722	千円	2,111	千円
目標		歴史的建造物めぐりや説明板などを通して、良好な景観形成に係る市民等の意識啓発を図る。							
実績・効果		歴史的建造物めぐりへの応募件数は次のとおり。 応募件数 令和4年度：141件 令和5年度：239件 令和6年度：業務状況を鑑み未実施 都市景観に対する市民の意識の向上及び周知に寄与した。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・本事業により、市民等が本市の歴史や景観を理解し、魅力を認識することが、歴史的建造物や良好なまちなみの保全に繋がる。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・歴建めぐりは、約40名の募集人員を超える応募がある。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・参加者のアンケート調査では満足度が高い。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・低予算で歴建めぐりを実施している。 ・説明板の修繕は、小樽ファン基金により実施している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 歴史的建造物めぐりを引き続き実施する。 説明板は、維持補修を行うとともに、歴史建造物の歴史性やストーリー性を持たせた解説の手法について検討する。									

事業名		担当			
事業概要					
	事業費(A)	概算人工	人件費換算(B)	トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円	人	千円	0	千円
R7予算	千円	人	千円	0	千円
目標					
実績・効果					
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等	
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					
【今後の方向性の説明】					